

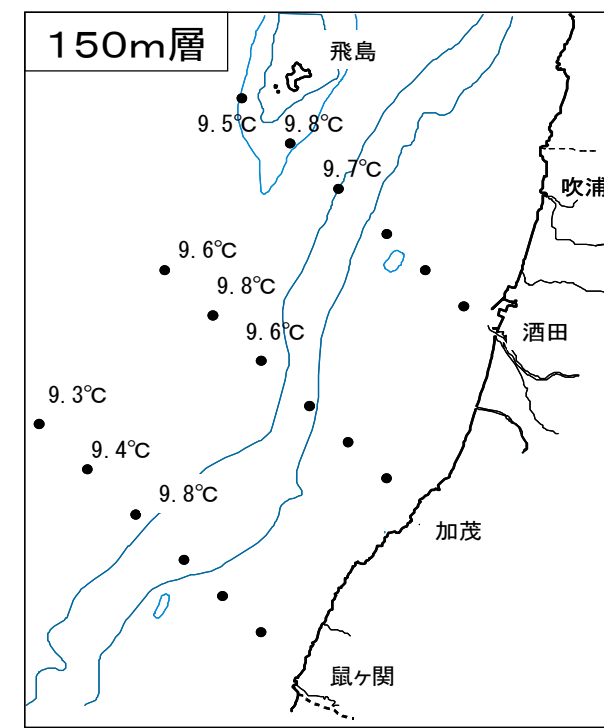
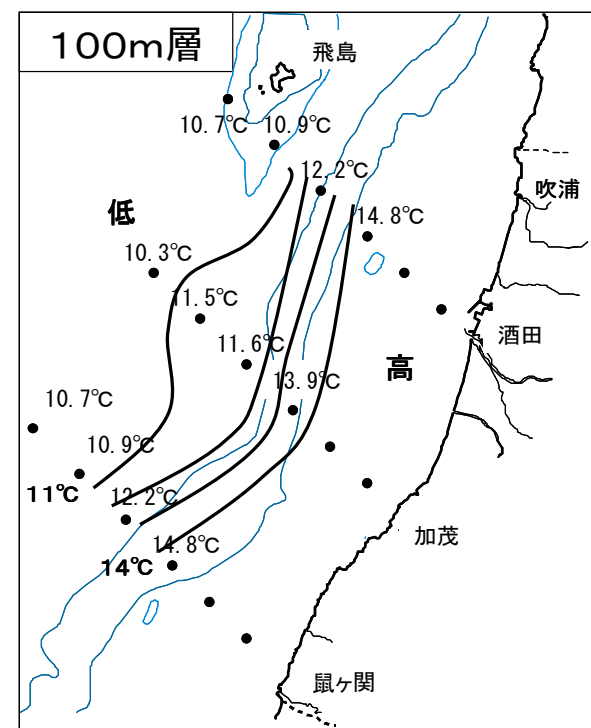
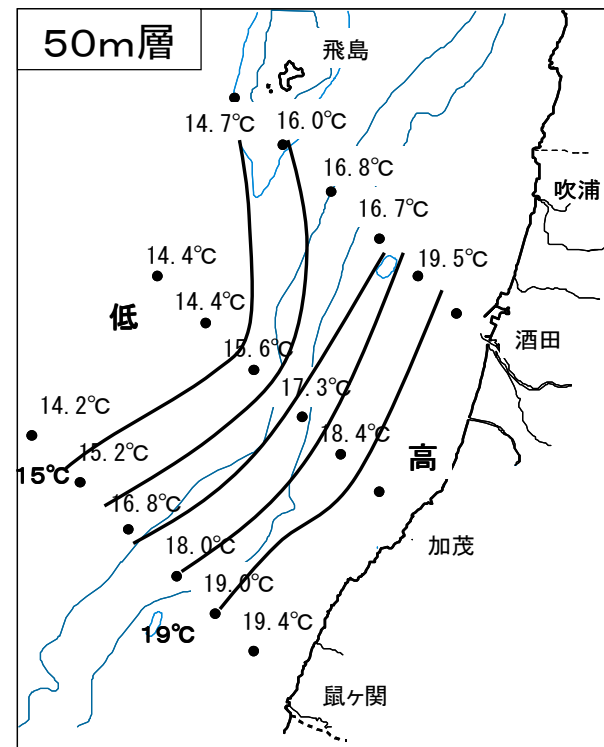
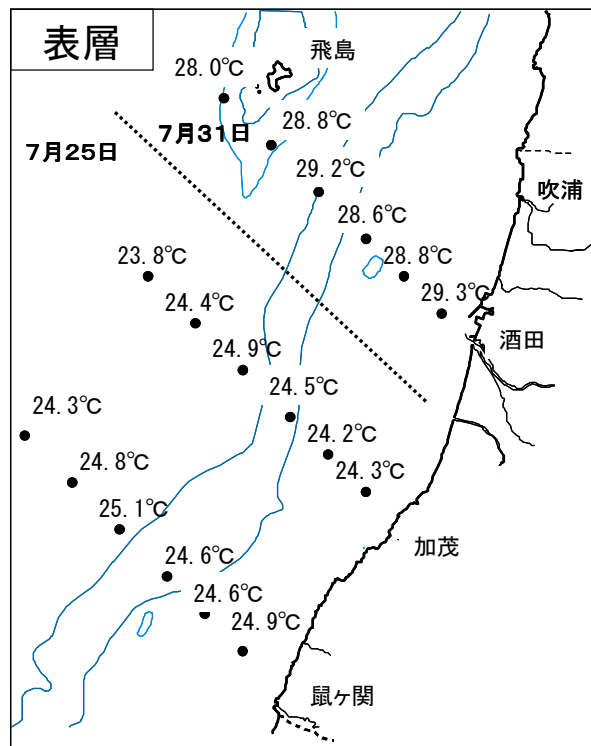
漁海況情報

第482号(平成24年8月16日発行)

発行:山形県水産試験場 〒997-1204 鶴岡市加茂字大崩594
TEL0235(33)3150 FAX0235(33)0379
ホームページ: <http://www.pref.yamagata.jp/ou/norinsuisan/147010/>

8月の沿岸水温 観測日:7月25, 31日(最上丸および月峯)

表層、50m層、200m層、300m層は「平年並み」、100m層と150m層は「平年よりやや低め」です。



各層別の平均水温

単位:°C

	表層	50m層	100m層	150m層	200m層	300m層
本年	25.9	16.5	11.9	9.6	7.2	1.7
前年差	-2.3	+0.2	-0.5	-0.8	-1.3	-1.2
平年差	+0.2	-0.6	-0.7	-0.6	±0.0	-0.1
評価	平年並み	平年並み	やや低い	やや低い	平年並み	平年並み
(前月評価)	かなり低い	平年並み	やや低い	やや低い	平年並み	平年並み

評価の表現:”平年並み”は約2年に1回,”やや”は約4年に1回,”かなり”は約10年に1回,”はなはだ”は約20年以上に1回の出現確率を表しています。

地先平均水温(7月)

単位:°C

場所	水温	前年差	平年差	評価
水産試験場(鶴岡市加茂港内)	24.6	+0.2	+1.4	やや高い
栽培漁業センター(鶴岡市三瀬地先)	23.1	+0.2	+0.9	やや高い

大型クラゲ情報

(独)水産研究総合センターは、8月6日に、「平成24年度大型クラゲ情報 第3報」を発表しました。

1. 出現状況

大型クラゲ分布調査で、7月20日～22日に東シナ海中央部で大型クラゲの出現を確認しました。また、目視調査により、7月21日～24日に黄海(済州島北沖～中国青島沖)および済州島南沖を中心に大型クラゲの出現が認められ、韓国南西沖～済州島北沖では、前回の調査時(7月4～10日)と同様に高密度の分布を確認しました。

現時点での出現量は、前回の調査時に比べるとやや低下したものの、昨年および一昨年よりは依然として多い状況です。

対馬海峡においては、7月18日前後から大型クラゲの出現が確認され、その後、主に西水道で出現が認められています。なお、山陰海域においては、8月6日現在大型クラゲの出現は確認されていません。

2. 移動予測について

・黄海～東シナ海で出現している大型クラゲの移動予測

7月下旬に、黄海及び済州島南沖等で大型クラゲの分布が確認されていることから、水産総合研究センターおよび気象庁の海況予測モデルを用いて、移動予測計算を行いました。

その結果、これらの海域に分布している大型クラゲは、8月中旬以降も引き続き、主に対馬海峡西水道から日本海に流入する可能性があります。

・対馬海峡で出現している大型クラゲの移動予測

7月中旬以降、主に対馬海峡西水道で大型クラゲの出現が確認されていることから、日本海海況予測システム(JADE)を用いて、日本海における大型クラゲの移動予測計算を行いました。

その結果、同海峡西水道から日本海に流入した大型クラゲは、韓国東岸を北上して離岸した後、大部分は再び南下しながら分布を東方に拡げるとともに、その分布の先端の一部は8月中旬頃に丹後半島沖合に達する可能性があります。

7月の漁況

- ・延べ操業隻数は、3,966隻で前年比87%でした。
- ・総漁獲量は、855トンで前年比127%でした。これは、いか一本釣り漁業と船凍いか釣り漁業の水揚げが好調なためです。
- ・採貝藻漁業の漁獲量は91トンで前年比83%でした。アワビは前年を上回りましたが、イワガキ、サザエ、アラメ(飛島、乾物)、イギス、モズクは下回りました。
- ・定置網漁業の漁獲量は32トンで前年比99%でした。トビウオは前年を大きく上回りましたが、ブリ類、アジは下回りました。
- ・はえなわ漁業の漁獲量は23トンで前年比89%でした。マグロ(メジを含む)、クロソイは前年を上回りましたが、タイ類、ブリ類、は下回りました。
- ・その他の漁業では、いか一本釣り漁業のスルメイカ、船凍いか釣り漁業のスルメイカ、あまだいさし網漁業のアマダイ、ごち網漁業のタイ類、一本釣り漁業のブリ類は前年を上回りましたが、さし網漁業のネジリ(ウシソシタ類)、サザエ、キス、ばいかご漁業のバイ類は下回りました。

* 前年比は平成19～23年までの平均値と比較した値です。

全漁業支所別漁獲量

支所	吹浦	飛島	酒田	加茂	由良	豊浦	温海	念珠関	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	265	384	927	306	477	471	282	854	3,966	95%	87%
漁獲量	32,972	75,221	522,225	87,695	48,819	32,289	9,406	46,253	854,880	135%	127%
前年比	97%	133%	183%	86%	129%	79%	94%	70%	135%		
前年比	81%	138%	175%	98%	87%	99%	93%	49%	127%		

採貝藻漁業

支所	吹浦	飛島	酒田	加茂	由良	豊浦	温海	念珠関	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	180	194	128	151	248	217	154	428	1,665	88%	84%
イワガキ	29,015		19,548	3,818	5,085	2,126	1,675	11,665	72,930	84%	81%
アワビ	209			1	35	293	196	118	853	149%	246%
サザエ		2,942		12	144	286	189	408	3,980	44%	59%
アラメ		1,264							1,272	29%	71%
イギス				19	19			88	125	43%	41%
モズク				936	719	1,081	303	114	3,329	452%	60%
その他	384	6,491	329	10,352	456	74	146	268	18,500		
計	29,608	10,697	19,877	15,138	6,458	3,860	2,509	12,661	90,807	86%	83%
前年比	123%	111%	124%	164%	56%	36%	43%	68%	86%		
前年比	90%	158%	137%	140%	47%	45%	63%	74%	83%		

その他の漁業

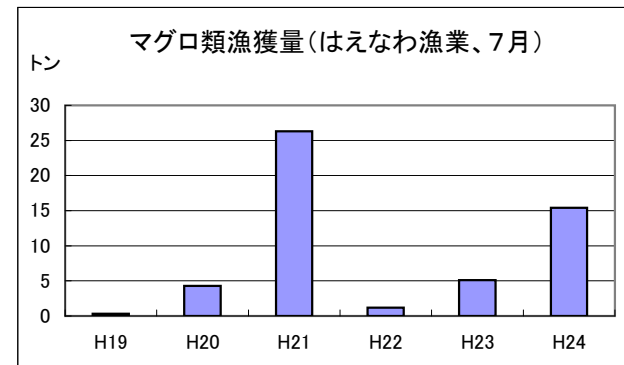
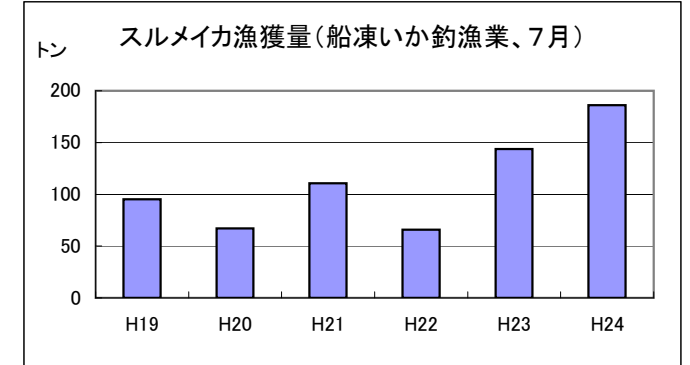
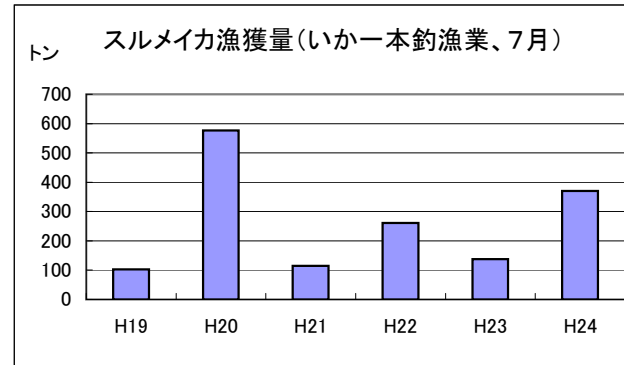
漁業種類	いか一本釣り漁業		さし網漁業			あまだいさし網漁業	ごち網漁業	一本釣り漁業	ばいかご漁業
	いか一本釣り漁業	船凍いか釣り漁業	ネジリ	サザエ	キス	アマダイ	タイ類	ブリ類	バイ類
延べ操業隻数	378	8	531			105	168	276	32
対象魚種	スルメイカ	スルメイカ	ネジリ	サザエ	キス	アマダイ	タイ類	ブリ類	バイ類
漁獲量	369,673	186,168	1,099	1,823	1,180	4,185	33,077	3,251	15,716
前年比	268%	130%	28%	26%	81%	185%	103%	93%	97%
前年比	155%	193%	39%	32%	46%	132%	151%	153%	89%

定置網漁業

支所	加茂	由良	豊浦	念珠関	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	15	44	26	14	99	111%	107%
ブリ類	258	2,432	2,569	745	6,004	41%	67%
アジ	79	1,241	550	1,796	3,666	20%	27%
ウマヅラ	28	216	154	876	1,274	74%	110%
トビウオ	3,975	7,212	2,905	1,418	15,510	413%	548%
その他	588	1,927	1,271	1,382	5,168		
計	4,928	13,028	7,449	6,217	31,622	74%	99%
前年比	128%	87%	65%	49%	74%		
前年比	189%	114%	107%	60%	99%		

はえなわ漁業

支所	飛島	酒田	豊浦	温海	念珠関	その他	計	前年比	前年比
延べ操業隻数	15	59	29	126	164	42	435	136%	90%
タイ類	8	174	8	470	377	196	1,233	20%	10%
ブリ類		773	126	749	723	38	2,409	480%	89%
マグロ(メジ含む)		4,077	1,050	4,137	5,140	959	15,363	302%	207%
クロソイ	994	1		18	16	2	1,031	114%	237%
その他	767	78	163	1,042	167	255	2,472		
計	1,769	5,103	1,347	6,416	6,423	1,450	22,508	156%	89%
前年比	102%	249%	97%	170%	138%	169%	156%		
前年比	61%	93%	52%	113%	95%	78%	89%		



最上丸の調査予定(8月中旬～9月上旬)

- 底びき網漁業漁期前調査、重要魚種の加入量調査、海洋観測、ワニザメ駆除、上架整備**
- ・休漁期間中の底びき網漁場状況を調査し、情報提供します。
 - ・ヒラメ、アンコウ、カレイ類等の重要な底魚類の資源動向を明らかにするため、稚魚や幼魚の生息状況を調査します。
 - ・海洋観測を行います。
 - ・ワニザメの駆除を行います。
 - ・上架整備を行います。

